

病院・有床診療所に係る整備計画書（具体的対応方針）

1 基本情報

法人名	医療法人社団健誠会
医療機関名	Kenクリニック
所在地	千葉県袖ヶ浦市蔵波台6丁目19番地1

※ 移転の場合、所在地欄には現在地と移転先を二段書きにしてください。

2 整備内容等（該当項目に☑）

整備内容	<input type="checkbox"/> 新築(建替含む)	<input checked="" type="checkbox"/> 増築	<input type="checkbox"/> 改築	<input type="checkbox"/> 転換(内部改修等)
財政支援	<input type="checkbox"/> 特別交付税措置	<input type="checkbox"/> 特別償却制度	<input type="checkbox"/> 県補助金	

※ 財政支援については、提出時点で申請予定の内容を記載してください。

3 今後担う役割（該当項目に○）

	がん	脳卒中	心血管疾患	糖尿病	精神疾患	救急	災害	周産期	小児	在宅	その他
整備前	○	○	○	○	○				○		
整備後	○	○	○	○	○				○		○
その他の内訳及び補足等	小手術（腹部ヘルニア等）、健康診断、乳腺・内視鏡検査、緩和ケア(在宅支援)										

4 整備後の診療科

診療科名	整備前	内科、呼吸器科、消化器科、循環器科、小児科、外科、皮膚科、泌尿器科
	整備後	内科、呼吸器科、消化器科、循環器科、小児科、外科、皮膚科、泌尿器科

5 病床機能及び入院料

	整備前	整備後	届出予定の入院料
			4 機能 合計
高度急性期	床	床	
急性期	床	床	
回復期	床	10床	有床診療所入院基本料5（予定）
慢性期	床	床	
人間ドック等	床	床	
休棟等	2床	0床	

6 病床機能を変更する理由等（現在と整備後の機能別病床数を変更する場合のみ）

環境要因（地域背景・小手術ニーズ・患者受渡機能）の検討を踏まえ、事業承継と診療機能の見直しを図るため、病床機能を変更したい所存です。

① 地域背景（地域包括ケアシステムにおける回復期病床の必要性）

袖ヶ浦市の地域医療資源の状況を見ると、袖ヶ浦市は全国平均と比較して全体として一般診療所が不足していること、当クリニックから 15Km 圏における人口は全体では人口は減少傾向であるものの高齢化率が上昇し高齢者の受診が高まると推定されること、在宅医療推進の課題の1つは「入院先の確保」であり地域内で地域包括ケアに資する回復期病床の確保が必要とされているが君津医療圏において大きく不足しており拡充が必要とされていることわかりました。

② 腹部ヘルニア等の小手術ニーズ（小手術後の回復病床の設置）

後継者の医師は腹部ヘルニア等の手術経験が豊富（鼠径部ヘルニア治療経験 2700 病変以上）であり、小手術機能・設備を拡充する方向です。専門的な小手術を加えることにより、病院の負荷軽減、患者状態に応じた最適な術式提供、後継者のスキルを活かした事業承継を実現し、地域密着の有床診療所を維持できると考えております。なお、千葉県内の鼠径ヘルニア治療は年間約 6000 人で、手術が 99.8%、病院での手術が大勢となっており、患者・病院側双方にニーズがあると考えます。

③ 病院からの患者受渡機能（地域医療構想等における回復期病床の必要性）

従来からの「病院からの在宅・介護施設等への患者受渡機能」に加え、新型コロナウイルス感染症の出現により、「新型コロナウイルス感染症回復患者の転院先となる後方支援医療機関の確保」が必要とされています。

7 地域の医療機関との連携やネットワーク化に対する考え

地域の医療機関と連携し、地域医療構想・地域包括ケアシステムの一翼を担います。

① かかりつけ医

・地域密着の医療提供、地域住民の健康管理、在宅医療支援

② 腹部ヘルニア等の小手術

・専門医による小手術、診療所・病院との連携、病院の負荷軽減

③ 回復期病床（10 床）

・急変時の地域患者受入、病院からの患者受入、地域医療機関からの患者受入

8 整備スケジュール

供用開始予定	令和 4 年 3 月予定
その他補足	

Kenクリニック事業計画の概要

―事業承継と診療所機能の見直し―

令和3年6月16日

医療法人社団健誠会 Kenクリニック
(千葉県袖ヶ浦市)

1

事業承継と診療機能の見直しについて

- 千葉県袖ヶ浦市の「Kenクリニック」は、平成6年（1994年）の個人開業以来27年間にわたり、2床を有する「地域のかかりつけ有床診療所」としての役割を担って参りました。（現在、休床中）
- クリニックとともに院長も齢を重ね、地域医療をこれからも支え続けるためには、「円滑な事業承継」と「診療所機能・設備の見直し」が必要となっております。
- 後継者の医師は腹部ヘルニア等の手術経験が豊富（鼠径部ヘルニア治療経験2700病変以上）であることから、小手術機能を追加整備する方向で計画を検討しました。当クリニックが小手術を担うことにより、医療圏病院の小手術対応負荷を軽減し、患者には専門医による治療を提供できるメリットがあると考えております。
- そこで診療機能を以下に再構築し、今後も地域有床診療所の役割を果たす所存です。
 - ①かかりつけ医：地域密着の医療、地域住民の健康管理、在宅医療支援
 - ②腹部ヘルニア等の小手術：事業承継、専門医の配置、病院の負荷軽減
 - ③病院からの患者受渡機能：在宅・介護施設への受渡、新型コロナ回復患者後方支援など

ご協議のほど、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

2

1. 現クリニックの概況

名称	医療法人社団健誠会 Kenクリニック	
管理者	山本 健介	
所在地	千葉県袖ヶ浦市蔵波台 6-19-1	
標榜診療科	内科、呼吸器科、消化器科、循環器科、小児科、外科、皮膚科、泌尿器科	
届出施設基準	時間外対応加算2	第70号
	小児科外来診療科	第326号
	酸素の購入単価	第24187号

届出病床	2床(院長高齢化により休床中)
------	-----------------

人員体制	医師	常勤	1名
	看護師	常勤	2名
		非常勤	1名
	事務	常勤	2名
		非常勤	2名



最寄り駅はJR内房線長浦駅で、駅からは徒歩20分程度と離れておりますが、姉崎袖ヶ浦ICからは車で約10分と自動車による交通の便がよく、君津医療圏内の医療機関と連携しやすい立地にあります。

3

2. 地域背景

(1) 袖ヶ浦市の地域医療資源の状況



袖ヶ浦市は全国平均と比較して、全体として一般診療所が不足しており、診療所の維持・拡充が必要であると考えられます。

※千葉県保健医療計画・県内の外来医療体制の可視化(千葉県)によれば、君津医療圏の診療所における外来医療ニーズに対する診療所医師数は県内では中位ですが、全国的には平均以下とされているとのことです。

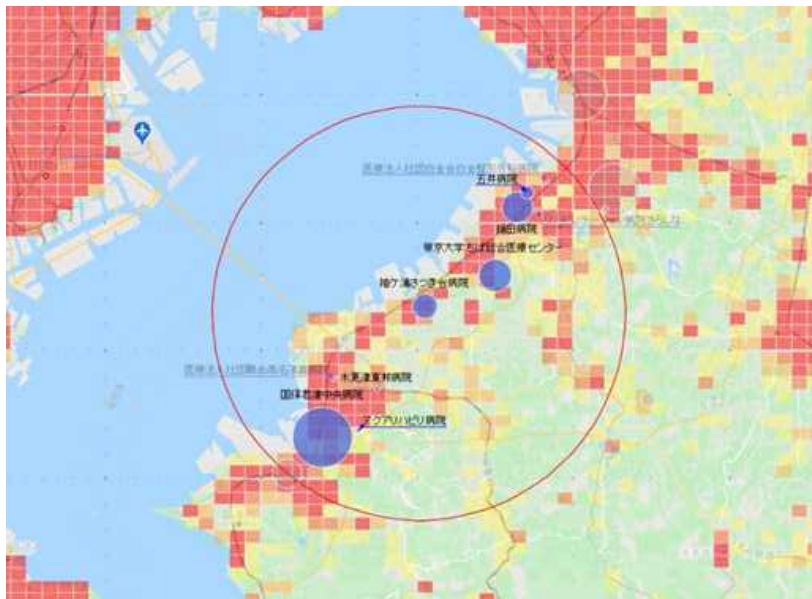
出典：日本医師会 地域医療情報システム(JMAP)

4

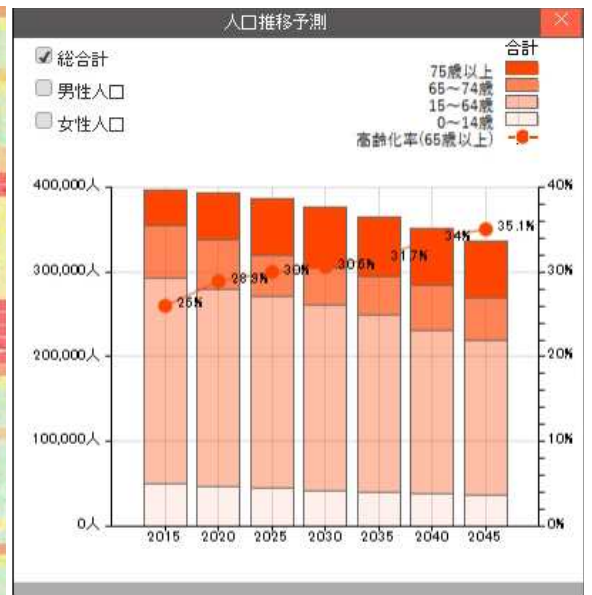
2. 地域背景

(2) クリニックから15km圏における人口動態

15km圏における人口集中



人口推移予測



・ 15km圏内における人口動向は、袖ヶ浦市の人口増加はあるものの、市原市など減少傾向が続くことにより、全体として減少傾向。

・ 2015年に400千人（うち袖ヶ浦市64千人）、2045年には6%（約24千人）減少。高齢化率は10%上昇

袖ヶ浦市の人口は増加するものの、15km圏内全体人口は減少傾向にあります。一方、高齢化率は上昇し、加齢による疾患・高齢者の受診が高まると推定されます。

出典：セコム医療システム(株)病院経営情報分析システムSMASH提供(2021年1月)

5

2. 地域背景

(3) 在宅医療推進における課題

関東信越厚生局「第4回地域包括ケア事例研究会（在宅医療介護連携）」講演資料より

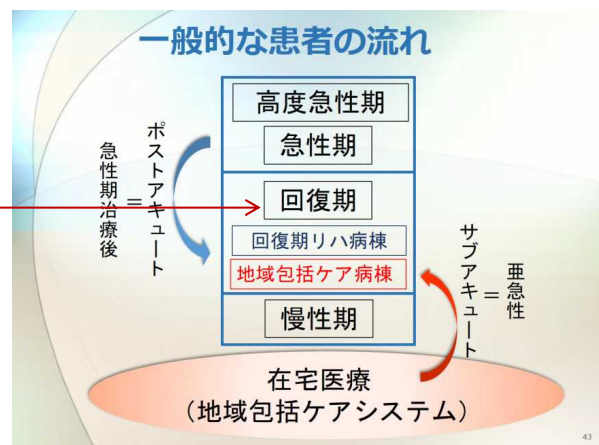
在宅医療のモットー

だれでも
いつでも
いつまでも

↕

在宅医のストレス

- ① 24時間365日体制の維持
- ② 緊急時の対応
- ③ 入院先の確保 → これに尽きる!!



高齢者等への在宅医療を推進する場合の課題の1つは「入院先の確保」です。地域内に在宅医療を支援する回復期病床を確保することが必要とされています。

出典：関東信越厚生局「第4回地域包括ケア事例研究会（在宅医療介護連携）」神奈川県病院協会・篠原氏「地域包括ケア病棟について」講演資料(2019年7月10日)

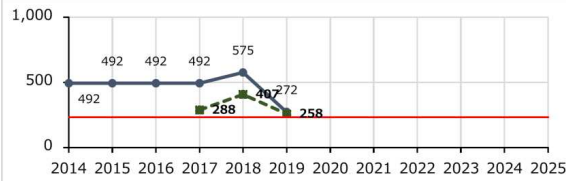
6

2. 地域背景

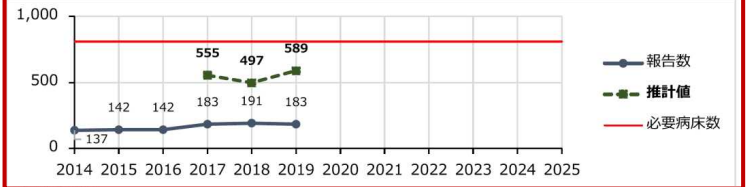
(4) 君津医療圏における回復期病床の状況

区域	医療機能	必要病床数 (R7年) A	病床機能報告 (R1.7.1) B	差し引き B-A	定量的基準に基づく病床数			
					R1推計値 C	差し引き C-A		
君津	高度急性期	232	272	40	過剰	258	26	過剰
	急性期	806	1,195	389	過剰	859	53	過剰
	回復期	810	183	▲627	不足	589	▲221	不足
	慢性期	522	762	240	過剰	622	100	過剰
	休棟等	-	185			269		
	計	2,370	2,597	227	過剰	2,597	227	過剰

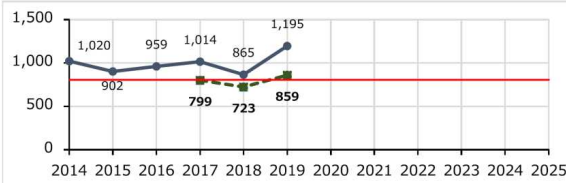
●高度急性期機能



●回復期機能



●急性期機能



●慢性期機能

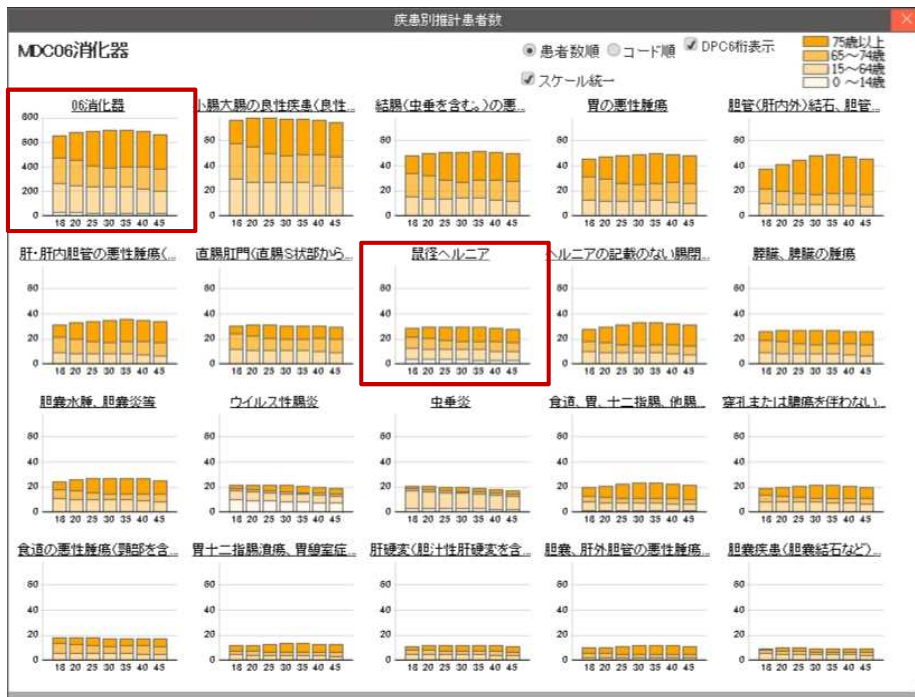


君津医療圏における2025年必要病床数と病床の充足状況を見ると、回復期病床が大きく不足しており、拡充が求められています。

出典：令和元年度病床機能報告と定量的基準に基づく病床機能の推定値【資料3】(令和2年度第1回君津地域保健医療連携・地域医療構想調整会議資料)

3. 腹部ヘルニア治療ニーズ

(1) クリニックから15Km圏における消化器疾患の動向



15Km圏内における消化器疾患患者数は650人/月、鼠径ヘルニア手術は30人/月です。鼠径ヘルニア手術ニーズは年間360件程度存在すると考えられます。